

算数科学習指導(略)案

1年3組 23名 指導者 沢村優治

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 子どもたちの日常の様子としてあるようなものを学習課題として提示することによって、算数で学習していることが、日常生活につながっていることを意識させることができたか。
- 解決のポイントとなる言葉が何であるかということを考えさせることによって、加法の意味理解を意欲的に算数的な言葉を用いて解決することができたか。

1 題材 たしざん (1)

2 指導計画 (総時数10時間)

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
見 つ か む ・ 見 通 す	1 サッカーボールをかごに入れる絵やブロックをあわせる絵を見て、合併の場面について知り、加法の記号と等号を使って式で表す。 【知：加法の記号や等号の使い方を理解することができる。】	1
見 つ け る	2 いろいろな場面について式に表したり、加法の答えを見付けたりする。 3 文章から加法の場面を読み取り、10以下の加法の計算をする。 4 増加の場面を知り、その場면을加法の式で表すことができることを考える。 【考：増加の場面について表す式を考えることができる。】	1 1 1 (本時)
磨 き 合 う	5 加法の計算練習をする。 6 たし算カードを作る。 7 たし算カードを使ったゲームをして遊ぶ。 8 0の意味から、0を使った計算について考えたり、おさらいをしたりする。 9 たし算の本について知り、たし算の本を作る。 【表：10以下のたし算カードを使って、正しく計算することができる。】	1 1 1 1 1
返 振 り	10 加法の計算や適用場面についての理解を深める。 【表：加法の計算の意味を理解し、正しく処理することができる。】	1

3 本 時 (4/10)

(1) 目 標

増加の場面も加法の式に表せることを理解し、答えを正しく求めることができる。

(2) 評価規準

増加の場面について表す式を、ブロックやおはじきなどを使いながら考え、答えを求めることができる。 【数学的な考え方】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、実際に場面の様子を想像し、子どもがかもを演じることで関心をもたせ、かもの数がかもといいた数より増えている様子をつかむことができるようにしたい。また話づくりの時も、「はじめに」や「あとから」、「ふえると」など立式する際の解決のポイントとなる言葉を使って話を作らせることができるようにしたい。

「見通す」過程では、解決の見通しがもてるように、「これまで学習したことで何か使えないかな」と発問し、言葉やブロック、おはじきを使って表現したことに気付かせるようにする。子どもたちが入学して間もないため、ある程度共通の見通しがもてるように配慮する。

「見つける」過程では、子どもたちが自力解決に必要な時間を十分に確保する。また、自力解決をしているときに、これまで学んだことを活用していることに対して価値付ける賞賛を行いながら個別指導を行う。戸惑っている子どもには、解決するためのヒントを与えたり、助言を行ったりする。

「磨き合う」過程では、学習問題をどのように解決したのかということを確認した上で、同じ加法でも意味が違うことに気付かせるような発問をする。また、黒板で半具体物を操作させたり、身体表現をさせたりしながら、増加の問題の意味理解を深めさせたい。

「振り返る」過程では、2数をあわせるやり方ではなく、ある数から増えていく加法であることを意識させ、本時で学んだことを活用しながら、確かめの問題に取り組むことができるようにする。

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価	
10 (分)	つかむ	1 絵を見て気付いたことを出し合い話づくりをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・池がある。 ・かもが4わ泳いでいる。 ・かもが2わ近づいている。 ・2わ増えたよ。 <p>初めにかもが4わいました。後から2わ増えて6わになりました。</p>	池の様子を想像させて、かもになりきらせ、すでにいる池のかもに、近づいてくるかもを演じさせることで、かもの数が増える様子をつかませる。
		2 学習課題を受けとめる。 <p>すいそうにきんぎょが6ぴきいました。2ひきふえるときんぎょはぜんぶでなんぴきになるでしょうか。</p>	数が増える話づくりの際に、「はじめに」や「あとから」、「ふえと」などの解決のポイントになる言葉をまじえる。
		3 学習問題をつかむ。 <p>かずが ふえる おはなしのときは どのようにして ぜんぶのかずを もとめるのだろう。</p>	解決の見通しを立てられるように、「これまで学習した中で何か使えないかな」と発問する。
30	見通す	4 金魚の絵を見て、解決の見通しを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・かもやブロックと同じようにお話が作れそうだ。 ・金魚の数と同じだけのブロックを使って表せないかな。 ・式で表せそうだな。 	自力解決している場面で、これまで学んだことを活用していることに対して(価値付ける)賞賛を行いながら個別指導を行う。
	見つける	5 自力解決を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックを使ったら、答えが出たぞ。 ・初めに金魚が6ぴきいる。 ・2ひき増えた。 ・8ぴきになった。 	<p>※ 増加の場面について表す式を、ブロックやおはじきなどを使いながら考え、合併と考え方が同じであることに気付くことができる。(活動の様子、ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 解決できている子どもには、たし算の意味の違いを自分の言葉で表すことができるように声をかけをする。 ○ 解決できていない子どもには、ブロックを動かしながら教師と共に加法と同じように加えるいる作業をしていることに気付かせる。
	磨き合う	6 自分の考えや思いを発表し、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックをくっつけるところが同じだ。 ・ともにたし算だ。 ・「あわせて」の時は両方を一度にくっつけるけど「ふえと」あとから加える。 ・式は6+2です。答え8ぴきです。 <p>かずが ふえる おはなしも たしざんで もとめることができる。</p>	
振り返る	7 たし算の練習問題をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・間違えないようがんばるぞ。 ・印を付けてやってみるぞ。 	定着を図ることができるように、練習問題を行う。また、学習したことを振り返らせるために、本時で学んだことを活用するように助言していく。	
5	振り返る	8 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「あわせて」「ぜんぶで」「みんなで」だけでなく、「ふえと」もたし算になるんだ。 ・ブロックやおはじきを使うと数を合わせるのが分かりやすい。 	